

平成25年度エイズ予防財団助成事業実績報告書

実施団体	東北HIVコミュニケーションズ	
実施事業名	東北・仙台でHIV/AIDSのリアリティを伝えるliving Together in SENDAI	
団体代表者	小浜 耕治	
事業の目的	HIV感染拡大が懸念される東北・仙台のMSMに対し、HIVのリアリティを伝えることを通してHIVを身近にとらえる機会を与え、予防やHIV検査の促進およびHIV陽性者への誤解・偏見の提言をはかる。	
事業の達成度	<p>直接効果＝イベント参加者のべ156名にHIVのリアリティを伝えた。 (目標の86.7%)</p> <p>間接効果＝12月仙台市エイズ即日検査会でのMSM受検者数 2012年22名→2013年18名(前年比18%減) ※ただし、陽性判明2012年検査会0名→2013年検査会1名 検査がより必要な人が受検する機会となった。</p>	
事業実績	対象となった人数	<p>Living Together in SENDAI【8月】67名、【11月】57名</p> <p>HIV陽性者と語ろう【8月】10名</p> <p>シンポジウム【8月】22名 計156名</p>
	具体的な活動内容	<p>■Living Together in SENDAI(8月と11月の2回実施)</p> <p>音楽のライブ会場でHIV陽性者やその周りの人が書いた手記の朗読を行い、ライブの参加者へHIVのリアリティを伝えた。参加者には手記集を配布し、イベント終了後も手記にふれられるようにした。</p> <p>■HIV陽性者と語ろう(8月実施)</p> <p>HIV用紙者のスピーカーをゲストに招き、HIV陽性者と話す機会の少ない東北のMSMを対象に何でも話せる場を設けリアリティを伝えた。</p> <p>■シンポジウム(8月実施)</p> <p>MSM当事者及びMSMのHIV感染対策に関わるものを対象としたシンポジウムを開催し、HIVの現状を伝え、地方での対策について提言した。</p>